

Chapter

02 STUDY PLAN-10L 入学生

01.履修申請	021
02.成績表の見方	026
03.卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	027
04.卒業研究	030
05.卒業見込証明書	030
06.免状・資格について	031
07.飛び級制度	040
08.カリキュラム	041

01. 履修申請

- ・「履修申請」とは、自分が受けたい授業科目を申込みことです。
- ・「履修申請」は、本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、履修制限等をよく読んで上で、自分の時間割の計画を立てて申請してください。
- ・大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択できるようになっています。
- ・申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。
- ・申請の手順については、別に配布するWeb履修申請ガイドをご覧ください。

(1) 履修計画における注意点

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス」をよく読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受けたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。
- ③同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。各コースの履修要件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
- ④卒業資格最低単位数(卒業要件単位数)を充足できるよう重点をおいてください。
- ⑤申請する前に、学籍番号などによって指定されているクラス等を確認してください。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。
- ⑦既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

(2) 専門教育科目

1年次から各年次ごとに実験、実習、演習が開講されています。これらの科目は、2～3時限連続で開講されるものもあります。配当年次で修得できないと、次年度の必修科目と重複する場合がありますので注意してください。

(3) 手続方法

① 履修計画を立てる

配付資料に基づき履修計画を立て、Web履修申請ガイド巻末にある「時間割下書き用紙」に記入します。また、履修したい講義がクラス登録科目である場合には、同じく巻末にある「クラス登録応募下書き用紙」に記入します。講義科目の中には、学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの、抽選により履修者を決定するもの、プレースメントテストの結果により履修指示が与えられるもの等、さまざまなタイプがあります。これらの情報は、講義時間割の備考欄等に記載されています。

② 登録手続き（3つの期間（順序）に分けて行う）

a. クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果、当選した場合に限り履修することができます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は、巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

b. 本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を登録してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）同時に、抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内なら何度でも登録内容を変更することができます。登録が完了したら内容を印刷し、保管しておいてください。

c. 修正

登録した講義を修正（追加、削除）することができます。但し、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず登録内容を印刷してください。

【クラス登録の要領について】

- ・講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印がある講義の履修を希望する場合は、本申請に先立ちクラス登録が必要です。
- ・クラス登録は、応募受付⇒抽選⇒発表（本申請時には、当選した科目が画面に自動表示されています。）の順で行われます。
- ・当選した講義はキャンセルすることができません。また、はずれた方は、本申請期間または修正期間に残席がある場合に限り先着順で登録できます。

③ 言語文化科目について

- ・担当教員は、後日掲示でお知らせします。決定した担当教員のクラスで履修申請をしてください。
- ・TOEICクラスの受講は、事前に実施した学力テストの基準に達した学生に限りです。
- ・第1希望にもれた場合は、同一曜日・時限の別のクラスに割当てられることがあります。
- ・新入生の英語については、プレースメントテストの結果発表に従って履修申請してください。履修を希望しない場合は、予め教務課に申し出てください。

④ 身体科学科目

- ・再履修者は、再クラスでの登録となります。
- ・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。
- ・体育研究室からの注意事項は次の通りです。

〈体育研究室からのお願い〉

受講時の注意

- ① 出欠席を厳しくとります。身体科学科目が半期科目（前期で終了または後期で終了）の場合は、半年に3回までの欠席は認めますが、4回以上欠席した学生は不合格となり単位は認定されません。
- ② 「スポーツ科学」や「運動科学」は、講義日の3/4以上の出席が必要です。
- ③ 「スポーツ科学実習」について
 - ・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
 - ・運動服には、白い布に学籍番号と氏名を書いて左腕と右尻に縫い付けてください。
 - ・体育館内のコースを受講する学生は、運動靴に赤線を入れて室内専用に使ってください。
 - ・テニスコースを受講する学生は、テニスシューズを使用してください。
 - ・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を使用し、授業時間ごとに借り出し、授業終了後ただちに返却してください。
- ④ 本科目の受講の指示は掲示で行いますから、体育館の掲示板を見るよう心掛けてください。
- ⑤ 前・後期両方とも同じ種目を取らないようにしてください。ただし、抽選で前・後期とも同じ種目になった場合は受講してください。
- ⑥ 「ボウリング」、「ゴルフ」は、ゲーム代等別途費用がかかります。

(4) 自由科目

他学部（自分の所属する学部以外）および他学科（自分の所属する学科以外）の専門教育科目（人間環境学部は展開科目）を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。（これを「自由科目」と称します。）ただし、履修の認められない科目がありますので、下表で確認してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスを熟読のうえ選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる（表示されている）科目から選択してください。

電子情報通信工学科

他学部	他学科	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
人間環境	文化コミュニケーション・生活環境・スポーツ健康	4単位	製図、演習、実験、実習、外国書講読、卒業研究 ※その他各学科の事情等により除外する科目
経営	経営・流通		
経済	経済・国際経済		
——	機械工・交通機械工・都市創造工・情報システム工・建築・環境デザイン		

(5) 履修制限

電子情報通信工学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

10L学生に適用

1年間に履修できる単位数	最大50単位(教職に関する専門教育科目を除く)
学年による科目の制限	1年次:1年次配当科目を履修することができます。 2年次:1,2年次配当科目を履修することができます。 3年次:1~3年次配当科目を履修することができます。 4年次:すべての開講科目を履修することができます。
総合教育科目	卒業までに卒業要件24単位以上、専門教育科目(92単位以上)と併せて124単位以上修得してください。ただし、3年次修了時までに最低要件24単位(必修・選択必修含む)を修得しなければ、次年度「卒業研究」を履修することはできません。
	教養教育科目 ■初年度に「表現力基礎演習」を必ず履修しなければなりません。(留学生除く) ■留学生は、日本文化8単位を必修とします。
言語文化科目	■卒業要件単位は、8単位以上(うち英語の卒業要件単位を4単位以上)とします。(英語のみも可)(留学生除く) ①英語は入学初年度に限り、プレイスメントテストの結果により習熟度別クラスに分けます。 ■初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)を履修する場合は、必ず「入門1」から履修しなければなりません。 ■留学生は、 ①母国語を履修することはできません。 ②日本語8単位を必修とします。
専門教育科目	■「基礎数学および演習」、「解析学1・2・3」、「代数学1・2・3」、「数学演習1・2」は、プレイスメントテストの結果により習熟度別クラスに分けます。 ■入学初年度に「基礎数学および演習」を履修しなければならない者は、1年次後期に「解析学1」、「代数学1」、「数学演習1」を履修し、2年次前期に「解析学2」、「代数学2」、「数学演習2」を履修してください。 ■「数学基礎および演習」は、指定された者以外履修することができません。「基礎数学および演習」を履修した者は、「解析学3」、「代数学3」を履修することができません。 ※全員履修科目を含む習熟度別クラスは、強制的に登録されます。 ■卒業までに卒業要件92単位以上、総合教育科目(24単位以上)と併せて124単位以上修得してください。 ■「電子情報通信工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員とします。
その他	既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

02. 成績表の見方

- ・発表される「成績表」は、当該年度の前期末または学年末までの成績です。
- ・単位左側の文字の「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目、「選」は選択科目を表わします。
- ・成績欄右寄りの評価は「今年度の成績」、中央の評価は「昨年度までの成績」を表わします。
- ・評価・認定は、「S」「A」「B」「C」「D」「T」で判定します。

修得単位数欄

卒業要件単位数	卒業に必要な単位数
修得卒業要件単位数	現在修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得総単位数	現在修得している全ての単位数

進級・卒業判定欄

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業	4留
1年	2年	3年	4年	卒業できる	卒業延期

来年度欄（3年生以上）

卒見証発行	有	無
	卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可

卒研資格	有	無	済
	卒業研究履修資格有	卒業研究履修資格無	卒業研究修得済

※卒業研究の有資格者に卒業見込証明書を発行します。

- ・卒業研究履修資格欄（3年生以上）
学年末に発表する成績表には、次年度の「卒業研究」履修の可否が表示されます。

03. 卒業要件単位数（外国人留学生も共通）

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間（編入生は2年間）以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年（編入生は2年）で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上（編入生は別途定める）を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

（1）卒業要件単位数

総合 教育 科目	教養教育 科目	表現力基礎演習	要件なし	24 単 位 以 上	124 単 位	学士(工学)
		人 文 科 学	要件なし			
		社 会 科 学	要件なし			
		自 然 科 学	要件なし			
		学 際 領 域	要件なし			
	日 本 文 化	(留学生に限る) 8単位				
	言語文化 科目	英 語	4単位以上 } 8単位以上			
初 修 外 国 語						
日 本 語		(留学生に限る) 8単位				
	身 体 科 学 科 目	要件なし				
専 門 教 育 科 目		必修および選択科目の単位を併せて、92単位以上 (自由科目4単位を含む)				
4 年 以 上 在 学						

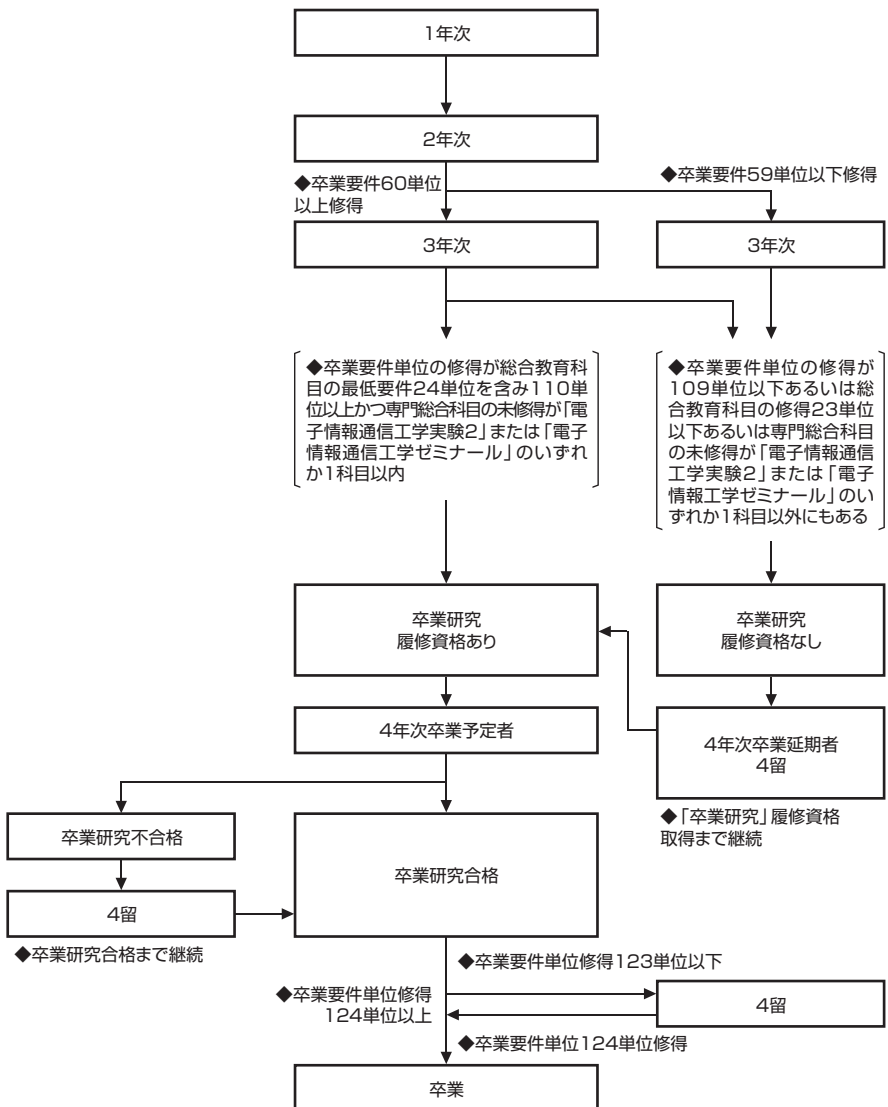
注) 留学生は、教養教育科目分野の日本文化8単位および言語文化科目分野の日本語8単位を必修とする。

(2) 進級の条件

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、4年間で卒業できなくなります。

なお、1年間で最大50単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。

—進級および卒業までの流れ—



(3) 卒業要件単位の履修要件

【総合教育科目】24単位以上

①必修科目※留学生のみ(卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。)

留学生は、日本文化科目群から「日本事情1・2」、「日本の社会と文化1・2」および日本語科目群から「日本語読解1・2」、「日本語作文1・2」、「上級日本語読解1・2」、「上級日本語作文1・2」、計12科目16単位を必ず修得してください。

②選択必修科目(特定の科目群から指定された単位を修得します。)

言語文化科目分野から、英語科目4単位以上を含み8単位を修得してください。ただし、留学生は日本語8単位が必修なので、修得しなくてもかまいません。

③選択科目(必修・選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

①②以外に、16単位以上(留学生は8単位以上)を修得してください。ただし、選択必修科目の8単位を超えた言語文化科目の単位は選択科目の単位に入ります。

【専門教育科目】92単位以上

①必修科目(卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。)

以下に示す6科目13単位を必ず修得してください。

区 分	科 目 名	単 位 数
専門教育科目	電子情報通信創造演習	1
	電子情報通信基礎演習	2
	電子情報通信工学実験1	2
	電子情報通信工学実験2	2
	電子情報通信工学ゼミナール	2
卒業研究	卒業研究	4

②選択科目(必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

専門基礎科目分野の共通科目群43科目から50単位以上、専門応用科目分野の電子情報科目群14科目、あるいは情報通信科目群14科目のうちどちらか1つの科目群から18単位以上、なおかつ専門基礎科目分野、専門応用科目分野からそれら(50単位と18単位)と併せて合計79単位以上を修得してください。

ただし、カリキュラム表の備考欄に「全員履修科目」とある科目については、卒業までに必ず履修(受講)してください。

また、教員免許状取得支援コースについては、別に定める教職関連科目のうち、「数学科教育法I」、「数学科教育法II」、「数学科教育法III」、「数学科教育法IV」、「工業科教育法I」、「工業科教育法II」、「情報科教育法I」、「情報科教育法II」、「情報と職業」の9科目を、専門基礎科目分野(共通科目)の卒業要件単位数に算入することができます。

総合教育科目と専門教育科目の最低要件単位数は併せて116単位です。卒業要件124単位に不足する8単位については、総合・専門各々の最低要件単位数を超えた単位で補ってください。

04. 卒業研究

(1) 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

(2) 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

- ①卒業要件124単位のうち、総合教育科目の最低要件24単位を含む110単位以上を修得していること。
- ②3年次までに配当の専門必修科目の未修得が、「電子情報通信工学実験2」または「電子情報通信工学ゼミナール」のいずれか1科目であること。

05. 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、13号館1階)を利用してください。

06. 免状・資格について

(1) 電気通信主任技術者免状

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持及び運用の監督責任者です。主として、NTTなどの通信回線を扱います。

電子情報通信工学科は総務省（前郵政省）の認定校であり、電子情報通信工学科の学生は、「試験の免除を受けるために必要な科目」を修得した場合、在学中であっても電気通信主任技術者試験科目のうち「電気通信システム」の科目が免除されます。

① 電気通信主任技術者の種類

電気通信主任技術者には、ネットワークを構成する設備に着目して区分されており、下表の通り2種類の資格があります。

	伝送交換主任技術者	線路主任技術者
資格の種類と監督範囲	監督範囲（電気通信主任技術者規則第3条） 事業用電気通信設備（線路設備及びこれに附属する設備を除く。）を直接に管理する事業場 事業用電気通信のうち、右に掲げた線路設備以外の設備が主な監督範囲です。 種別は多岐にわたりますが、伝送設備、無線設備、交換設備、その他のサーバや電力設備を含めたものを総合して取り扱います。 平成15年度までは、第1種と第2種に資格が分かれていましたが、平成16年度より「伝送交換主任技術者」として仕切りなおとなりました。 これは、電気通信事業が改正されたためで、自分で設備を持っている1種事業者と、1種から設備を借りてサービスを行う2種事業者に分かれていた時代のものでした。	監督範囲（電気通信主任技術者規則第3条） 線路設備及びこれに付随する設備を直接に管理する事業場） 無線以外の電気通信設備には必ず通信線が存在します。 身近な例を挙げれば、電信柱または電柱に敷設された電線がそうですし、交換機同士を結ぶネットワークも光ファイバで構築されています。 このような配線設備を線路設備と呼んでいます。鉄道路線（軌道）とは全く違うものです。 具体的には、電柱に設置されている電話回線や、国際電話に使用する海底ケーブル、市内を走る埋設通信線などを対象としたシステムエンジニアの業務を行います

② 電気通信主任技術者免状の取得方法

免状取得の方法には、次の3通りがあります。

- 1) 電気通信主任技術者試験（国家試験）に合格すること。
- 2) 総務省に認定された要請課程において、総務省令で定められた科目を履修すること。
- 3) 1), 2)に該当する者と同等以上の専門的知識及び能力を有すると総務大臣に認定されること。

③ 「電気通信システム」試験免除に必要な科目

設定基準の科目区分	本学の科目名称	年次	修得すべき科目	
基礎専門教育科目	数学	解析学1	1	2科目以上修得
		解析学2	1	
		解析学3	2	
		代数学1	1	
		代数学2	1	
		代数学3	2	
		数学演習1	1	
		数学演習2	1	
		応用数学	2	
確率と統計	2			

基礎専門教育科目	物理学	物理学1	1	2科目以上修得
		物理学2	1	
		波動と振動	2	
		基礎光学	2	
		波動光学	3	
		量子力学	3	
	電磁気学	電磁気学1	2	2科目以上修得
		電磁気学2	2	
		電磁気学演習1	2	
		電磁気学演習2	2	
	電気回路	回路理論1	2	2科目以上修得
		回路理論2	2	
		回路理論演習1	2	
		回路理論演習2	2	
		過渡現象論	3	
	電子回路	アナログ電子回路1	2	2科目以上修得
		アナログ電子回路2	3	
		半導体基礎	3	
		半導体工学	3	
		集積回路工学	3	
	デジタル回路	デジタル電子回路1	2	1科目以上修得
デジタル電子回路2		3		
デジタル信号処理		3		
情報工学	コンピュータアーキテクチャ	2	1科目以上修得	
	オペレーティングシステム	3		
	アルゴリズムとデータ構造	2		
	情報理論	3		
	符号理論	3		
	情報セキュリティ	3		
電気計測	電子計測	2	2科目以上修得	
	センサ工学	3		
	計測工学	2		
	電子デバイス工学	3		
専門教育科目	伝送路工学	電磁波工学	3	必ず修得
	交換工学	通信ネットワーク	3	必ず修得
	電気通信システム	アナログ通信工学	2	1科目以上修得
		デジタル通信工学	3	
		応用通信工学	3	

④参考

1) 国家試験の受験資格

受験資格は、学歴、年齢、性別、経験などの制限はありません。

2) 試験の程度

国家試験は、電気通信主任技術者として必要な最低限の専門知識及び能力について筆記試験を行います。

3) 試験科目

次の4科目となっております。

電気通信システム

専門的能力

伝送交換設備および設備管理（又は線路設備及び設備管理）及び法規

なお、一定の資格又は実務経験を有する場合には、申請により免除される科目があります。

電気通信主任技術者規則の一部を改正する省令（総務省令第44号平成16年3月22日）により電気通信主任技術者を受験する場合の試験科目が改正され、平成16年第1回電気通信主任技術者試験から実施されます。

試験科目	伝送交換主任 技術者	線路主任 技術者
1. 電気通信システム		
(1) 電気通信工学の基礎	○	○
(2) 電気通信システムの概要	○	○
2. 専門的能力		
(1) 伝送、無線、交換、データ通信及び通信電力のうちいずれか一分野に関する専門的能力	○	—
(2) 通信線路、通信土木及び水底線路のうちいずれか一分野に関する専門的能力	—	○
3. 伝送交換設備及び設備管理（伝送交換主任技術者に限る。）		
伝送交換設備の概要並びに当該設備の設備管理及びセキュリティ管理	○	—
4. 線路設備及び設備管理（線路主任技術者に限る。）		
線路設備の概要及び当該設備の設備管理	—	○
5. 法規		
(1) 電気通信事業法（昭和59年法律第86号）及びこれに基づく命令	○	○
(2) 有線電気通信法（昭和28年法律第96号）及びこれに基づく命令	○	○
(3) 電波法（昭和25年法律第131号）及びこれに基づく命令	○	○
(4) 不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年法律第128号）並びに電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）に基づく命令	○	○
(5) 国際電気通信連合憲章及び国際電気通信連合条約の概要	○	○

(2) 電気通信の工事担任者資格

電気通信の工事担任者は、電気通信回線に端末設備又は自営電気通信設備の接続工事を行い、又は、監督する者の資格です。主として、宅内やビル内の通信回線・機器を扱います。

電子情報通信工学科は総務省の認定校であり、電子情報通信工学科の学生は、「試験の免除を受けるために必要な科目」を修得して卒業した場合、すべての資格者証について試験の科目のうち「電気通信技術の基礎」の科目が免除されます。

① 電気通信の工事担任者の種類

工事担任者資格者証の種類は、AI種とDD種に大きく区分され、さらにそれぞれ第1種、第2種、第3種に区分されます。

資格者証の種類	工事の範囲
AI第1種	アナログ伝送設備(アナログ信号を入出力とする電気通信回線設備をいう)に端末設備を接続するための工事及び総合デジタル通信設備に端末設備を接続する工事
AI第2種	アナログ伝送設備に端末設備等を接続するための工事(末端設備等に収容される電気通信回線が50以下あって内線の数が200以下のものに限る)及び総合デジタル通信設備に端末設備等を接続するための工事(総合デジタル通信回線の数が毎秒84キロビット換算で50以下のものに限る)
AI第3種	アナログ伝送設備末端設備等を接続するための工事(末端設備等に収容される電気通信回線が1のものに限る)及び総合デジタル通信設備に端末設備等を接続するための工事(総合デジタル通信回線の数が基本インターフェースで1のものに限る)
DD第1種	デジタル伝送設備(デジタル信号を入出力とする電気通信回線設備をいう)に端末設備を接続するための工事 ただし、総合デジタル通信設備に端末設備等を接続するための工事を除く
DD第2種	デジタル伝送設備(デジタル信号を入出力とする電気通信回線設備をいう)に端末設備を接続するための工事(接続点におけるデジタル信号の入出力速度が毎秒100メガビット以下のものに限る) ただし、総合デジタル通信設備に端末設備等を接続するための工事を除く
DD第3種	デジタル伝送設備(デジタル信号を入出力とする電気通信回線設備をいう)に端末設備を接続するための工事(接続点におけるデジタル信号の入出力速度が毎秒100メガビット以下のものであって、主としてインターネット接続のための回線に限る) ただし、総合デジタル通信設備に端末設備等を接続するための工事を除く
AI・DD総合種	アナログ伝送設備又はデジタル伝送設備に端末設備等を接続するための工事

②「電気通信技術の基礎」試験免除に必要な科目

授業科目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
電 気 科 目	回路理論1	2	2科目以上修得
	回路理論2	2	
	回路理論演習1	2	
	回路理論演習2	2	
	過渡現象論	3	
電 子 回 路	アナログ電子回路1	2	2科目以上修得
	アナログ電子回路2	3	
	半導体工学	3	
デ ジ タ ル 回 路	ディジタル電子回路1	2	1科目以上修得
	ディジタル電子回路2	3	
	ディジタル信号処理	3	
有 線 電 子 通 信 工 学	アナログ通信工学	2	1科目以上修得
	通信ネットワーク	3	
デ ー タ 通 信 工 学	ディジタル通信工学	3	1科目以上修得
	情報ネットワーク	3	
数 学	解析学1	1	2科目以上修得
	解析学2	1	
	解析学3	2	
	代数学1	1	
	代数学2	1	
	代数学3	2	
	数学演習1	1	
	数学演習2	1	
	応用数学	2	
確率と統計	2		
物 理	物理学1	1	2科目以上修得
	物理学2	1	
	波動と振動	2	
	基礎光学	2	
	波動光学	3	
	量子力学	3	

(3) 第一級陸上特殊無線技士資格

所定科目の単位を修得して卒業すれば、申請により取得できる資格です。

① 第一級陸上特殊無線技士の操作範囲

- 1) 陸上無線局の空中線電力500ワット以下の多重無線設備で、30メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの技術操作。電気通信事業者・電力会社・放送事業者・公共機関などで利用されるマイクロ波の多重無線設備など。
- 2) 第二級・第三級陸上特殊無線技士の資格で操作できる無線設備の操作。陸上移動系の無線局、VSAT（ハブ局）、タクシー無線の基地局など。

② 第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために履修する科目

授 業 科 目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
無線機器学その他無線機器に関する科目	応用通信工学	3	必ず修得
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学	3	必ず修得
電子計測その他無線測定に関する科目	電子情報通信工学実験1 電子情報通信工学実験2	2 3	必ず修得
電波法規その他で電波法令に関する科目	電波・通信事業法規	3	必ず修得

(4) 第二級海上特殊無線技士資格

所定科目の単位を修得して卒業すれば、申請により取得できる資格です。

① 第二級海上特殊無線技士の操作範囲

1) 船舶に施設する無線設備（船舶地球局及び航空局の無線設備を除く。）並びに海岸局及び船舶のための無線航行局の無線設備で、次に掲げるものの国内通信のための通信操作（モールス符号による通信操作を除く。）並びにこれらの無線設備（レーダー及び多重無線設備を除く。）の外部の転換装置で、電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作。

ア 空中線電力10ワット以下の無線設備で、1,606.5KHzから4,000KHzまでの周波数の電波を使用するもの

イ 空中線電力50ワット以下の無線設備で、25,010KHz以上の周波数の電波を使用するもの

2) レーダー級海上特殊無線技士の操作の範囲に属する操作。

② 第二級海上特殊無線技士の資格を取得するために履修する科目

授 業 科 目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
無線機器学その他無線機器に関する科目	応用通信工学	3	必ず修得
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電磁波工学	3	必ず修得
電子計測その他無線測定に関する科目	電子情報通信工学実験1 電子情報通信工学実験2	2 3	必ず修得
電波法規その他電波法令に関する科目	電波・通信事業法規	3	必ず修得

(5) その他

学科によって、卒業または特定の科目を修得することを条件に資格や免許の取得で優遇されるものがあります。以下の一覧表を参考に履修コースや履修科目を選択してください。

【教員免許状】

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(工業)	工学部全学科(情報システム工学科除く)	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得(詳細は教職ガイダンスで説明します。)
高等学校教諭一種免許状(情報)	電子情報通信工学科 情報システム工学科	
高等学校教諭一種免許状(数学)		
中学校教諭一種免許状(数学)		

【学科あるいは特定科目の修得によって認定される資格】

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
二級ガンリン 自動車整備士 二級ジーゼル 自動車整備士	受験資格 ※実技試験免除	交通機械工学科の 自動車工学コース	特定科目の修得および卒業 ※卒業年次10~3月実施の 「整備技術講習」修了で 実技試験免除
1級建築士	受験資格	建築・環境デザイン学科の シビックデザインコース 建築・インテリアデザインコース	特定科目の 修得および卒業後の 実務経験(2~4年) (確認申請中)
2級建築士 木造建築士	受験資格	建築・環境デザイン学科の シビックデザインコース 建築・インテリアデザインコース 都市創造工学科の 土木・環境総合コース まちづくりコース	特定科目の 修得および卒業後の 実務経験(0~2年)

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
インテリアプランナー	受験資格	建築・環境デザイン学科	満20歳以上 ※登録には卒業後の実務経験(2年以上)が必要。 ただし、クラフトデザインコースについては、更に特定科目の修得が必要。
商業施設士	受験資格	建築・環境デザイン学科	卒業後の実務経験
技術士補	申請による資格取得	都市創造工学科の土木・環境総合コース	土木・環境総合コースの修了
測量士補	申請による資格取得	都市創造工学科	測量学1、測量学実習の修得および卒業 ※実務経験により測量士の資格取得可
社会福祉主事	任用資格	全学科	特定科目の修得および卒業
社会保険労務士	受験資格	全学科	卒業要件に必要とする62単位以上修得

【本学で実施する資格試験】

資格の種類	対象学科	取得の要件・その他
日本商工会議所認定簿記検定試験2・3・4級	全学科	試験合格(年3回実施されますが、本学では6月と11月の年2回を学内で実施します。申込方法は、掲示板でお知らせします。)
ガス溶接技能者	全学科	ガス溶接技能講習修了

07. 飛び級制度

飛び級制度とは、「学校教育法施行規則第70条第1項第4号」により導入された制度です。

大学院へ進む場合、大学を卒業してから大学院へ入学するのが一般的ですが、特に優秀な学生で、大学に3年以上在学し、かつ研究者として優れた資質を有する者に早期から大学院教育を実施する道をひらくのが飛び級制度です。

この制度を適用する場合、以下の「大学院学則」および「大学院学則の適用基準に関する工学研究科内規」に基づき実施されます。

この規程により大学院への入学資格を認められると、大学と大学院の両方に在籍することはできませんので、合格者はすみやかに在籍する大学の退学手続きをとり、大学院入学手続きをしてください。詳細についての問い合わせは、教務課に相談してください。

なお、種々の国家試験等の受験資格では、大学の学部卒業を要件としているものがあります。その場合は、不利となることを承知しておく必要があります。

参考

—飛び級入学資格—

平成18年4月以降に工学部に入学した学生が飛び級での大学院入学資格を得るためには、以下の条件を全て満たしてください。

- ① 本学工学部に1年次より在学
- ② 4年次配当の必修科目を除く卒業要件単位を全て修得、かつ124単位以上修得
- ③ 全修得科目の平均点が88点以上
- ④ 当該学科で推薦

08. カリキュラム

(1) 総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
総合 教育 科目	表現力基礎演習	2	24 以上	2	(2)							全員履修科目			
		2													
	人文科学	文 学		2	2										
		哲 学		2	2										
		論 理 学		2	2										
		心 理 学		2	2										
		社会思想史		2	2										
	社会科学	日本国憲法		2		2									
		現代の政治		2		2									
		経済学の基礎		2		2									
		近代史		2		2									
		地 理 学		2		2									
	自然科学	物 質 科 学		2		2									
		宇 宙 科 学		2		2									
		環 境 科 学		2		2									
		生 命 科 学		2		2									
	学際領域	現代数学入門		2		2									
		平 和 学		2		2	(2)								
		時 事 問 題		2		2									
		外国の社会と文化		2		2									
		倫理学(工業倫理を含む。)		2		2									
		科学技術史		2		2									
		日本文化		日本事情 1	②		2								留学生向け科目
				日本事情 2	②		2								留学生向け科目
日本の社会と文化 1	②			2							留学生向け科目				
日本の社会と文化 2	②			2							留学生向け科目				

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数				備考							
				1年次		2年次			3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期			
総合教育科目	言語	英語	4以上	8以上	(24以上)	英語(Listening&Speaking)1	1	2							(集中)
						英語(Listening&Speaking)2	1	2							
						英語(Listening&Speaking)3	1		2						
						英語(Listening&Speaking)4	1		2						
						TOEIC上級(Listening)1	1		2						
						TOEIC上級(Listening)2	1		2						
						英語(Reading&Writing)1	1	2							
						英語(Reading&Writing)2	1	2							
						英語(Reading&Writing)3	1		2						
						英語(Reading&Writing)4	1		2						
						TOEIC上級(Reading)1	1		2						
						TOEIC上級(Reading)2	1		2						
						英語総合(上級)1	1			2					
						英語総合(上級)2	1			2					
	英語海外研修	2		2	2										
	初修外国語	ドイツ語入門1	1	8以上	(24以上)	ドイツ語入門1	1	2							(集中)
						ドイツ語入門2	1	2							
						ドイツ語初級1	1		2						
						ドイツ語初級2	1		2						
						ドイツ語総合1	1			2					
						ドイツ語総合2	1			2					
						ドイツ語海外研修	2		2	2					
						フランス語入門1	1	2							
						フランス語入門2	1	2							
						フランス語初級1	1		2						
						フランス語初級2	1		2						
						フランス語総合1	1			2					
						フランス語総合2	1			2					
						フランス語海外研修	2		2	2					
	日本語	中国語入門1	1	8以上	(24以上)	中国語入門1	1	2							(集中)
						中国語入門2	1	2							
						中国語初級1	1		2						
						中国語初級2	1		2						
						中国語総合1	1			2					
						中国語総合2	1			2					
						中国語海外研修	2		2	2					
						日本語読解1	1	①	2					留学生向け科目	
						日本語読解2	1	①	2					留学生向け科目	
						日本語作文1	1	①	2					留学生向け科目	
	日本語作文2	1	①	2					留学生向け科目						
	身体科学科目	上級日本語読解1	1	8以上	(24以上)	上級日本語読解1	1		2						留学生向け科目
						上級日本語読解2	1		2					留学生向け科目	
上級日本語作文1						1		2					留学生向け科目		
上級日本語作文2						1		2					留学生向け科目		
スポーツ科学実習1						1	2								
スポーツ科学実習2						1	2								
スポーツ科学						2		2							
運動科学						2		2							
小計	104	24以上	44	38	28	28	8	8	0	0					

注) 総合教育科目の履修要件

- イ 「表現力基礎演習」は、留学生については随意選択科目とする。
- ロ 1年次配当の英語については、プレイスメントテストを実施し、その結果に基づいて、習熟度別にクラスを分ける。
ただし、英語の2年次および3年次配当科目については、この限りではない。
- ハ 英語は「4単位以上」必修であるが、この規定は留学生には適用しない。
- ニ 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)は複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。
ただし、各言語は、必ず「入門1」から履修しなければならない。
- ホ 留学生は、日本文化の4科目8単位および日本語の8科目8単位を必修とする。
なお、留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。
- ヘ 留学生には英語のプレイスメントテストを実施しない。

(2) 専門教育科目

(各履修コースの○印は必修科目・印は原則としてコースによって履修できない科目)

区分	科目	単位	履修コース			卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考			
			電子情報通信	警察免許取得支援	ゆめ育む		1年次	2年次	3年次	4年次				
							前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期	
専門 教育 科目	基礎数学および演習	4				電子情報通信コース 教員免許取得支援コース ゆめ育むコース 合計92以上	6						○	
	解析学 1	2					2	(2)						全員履修科目 ○
	代数学 1	2					2	(2)						全員履修科目 ○
	数学演習 1	1					2	(2)						全員履修科目 ○
	解析学 2	2					2	(2)						全員履修科目 ○
	代数学 2	2					2	(2)						全員履修科目 ○
	数学演習 2	1					2	(2)						全員履修科目 ○
	解析学 3	2						2						○
	代数学 3	2						2						○
	確率と統計	2							2					
	応用数学	2								2				
	物理学 1	2						2						全員履修科目
	物理学演習 1	1						2						全員履修科目
	物理学 2	2							2					全員履修科目
	化学 1	3						4						全員履修科目
	化学 2	2							2					全員履修科目
	電子物性基礎論	2								2				
	基礎電磁気学および演習	3							4					全員履修科目
	電磁気学 1	2								2				全員履修科目
	電磁気学演習 1	1								2				全員履修科目
	電磁気学 2	2								2				全員履修科目
	電磁気学演習 2	1								2				全員履修科目
	回路理論 1	2							2					全員履修科目
	回路理論演習 1	1					50以上		2					全員履修科目
	回路理論 2	2								2				全員履修科目
	回路理論演習 2	1								2				全員履修科目
	過渡現象論	2					ゆめ育むコース				2			
	アナログ電子回路 1	2								2				全員履修科目
	アナログ電子回路 2	2									2			
	ディジタル電子回路 1	2									2			全員履修科目
	ディジタル電子回路 2	2									2			
	ディジタル信号処理	2									2			
画像情報処理	2				49以上					2				
電子計測	2						2					全員履修科目		
計測工学	2							2						
制御工学 1	2								2					
制御工学 2	2									2				
コンピュータリテラシ	2					2						全員履修科目		
基礎プログラミング1	2						2					全員履修科目		
基礎プログラミング2	2							2				全員履修科目		
C A D / C G	2								2			全員履修科目		
電波・通信事業法規	2								2					
産業財産権	2								2					

区分	科目	単位	履修コース			卒業資格 最低単位数	週時間数				備考		
			電子情報通信	整 費 許 可 取 得 後	ゆ め 育 む		1年次	2年次	3年次	4年次			
							前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期
専 門 教 育 科 目	電子情報科目	熱・統計力学	2					2					
		半導体基礎	2						2				
		電子材料工学	2							2			
		量子力学	2							2			
		半導体工学	2								2		
		集積回路工学	2								2		
		電子デバイス工学	2								2		
		波動と振動	2					2					
		基礎光学	2						2				
		波動光学	2							2			
		量子エレクトロニクス	2								2		
		電磁波工学	2								2		
		センサ工学	2								2		
		システムと制御	2									2	
	情報通信科目	アルゴリズムとデータ構造	2					2					
		コンピュータアーキテクチャ	2						2				
		オペレーティングシステム	2							2			
		応用プログラミング	2							2			
		アナログ通信工学	2						2				
		デジタル通信工学	2							2			
		応用通信工学	2								2		
		通信ネットワーク	2								2		
		情報ネットワーク	2									2	
		グラフ理論	2								2		
		最適化手法	2									2	
		情報理論	2								2		
		符号理論	2									2	
情報セキュリティ	2									2			
専門総合科目	電子情報通信創造演習	1	○	○				2					
	電子情報通信基礎演習	2	○	○				4					
	電子情報通信工学実験1	2	○	○					6			全員履修科目	
	電子情報通信工学実験2	2	○	○						6		全員履修科目	
	電子情報通信工学セミナー	2	○	○	-						4		
卒業研究	卒 業 研 究	4	○	○	-						8	8	

電子情報通信コース・教員免許状取得支援コース 電子情報科目または情報通信科目のいずれから 18以上
 (ゆめ育むコース)
 (電子情報通信コース・教員免許状取得支援コース 必修13 選択79以上 合計92以上)

全員履修科目
 全員履修科目

区分	科目	単位	履修コース			週 時 間 数				備 考				
			電子情報通信	教員免許取得支援	ゆめ育む	1年次	2年次	3年次	4年次					
						前・後期	前・後期	前・後期	前・後期					
専門教育科目	共通科目	ゆめふくらむテーマ科目1	2	-	-	○	2							
		ゆめふくらむテーマ科目2	2	-	-	○		2						
		ゆめふくらむテーマ科目3	2	-	-	○			2					
		ゆめふくらむテーマ科目4	2	-	-	○				2				
	特別演習	ゆめ育むコース特別演習1	4	-	-	○	4	4						
		ゆめ育むコース特別演習2	4	-	-	○			4	4				
		ゆめ育むコース特別演習3	4	-	-	○				4	4			
		ゆめ育むコース特別演習4	4	-	-	○					4	4		
	小 計		176	92以上			30	26	30	38	48	32	12	12
	総合教育科目、専門教育科目合計		280	124以上			74	64	58	66	56	40	12	12

注) 専門教育科目の履修要件

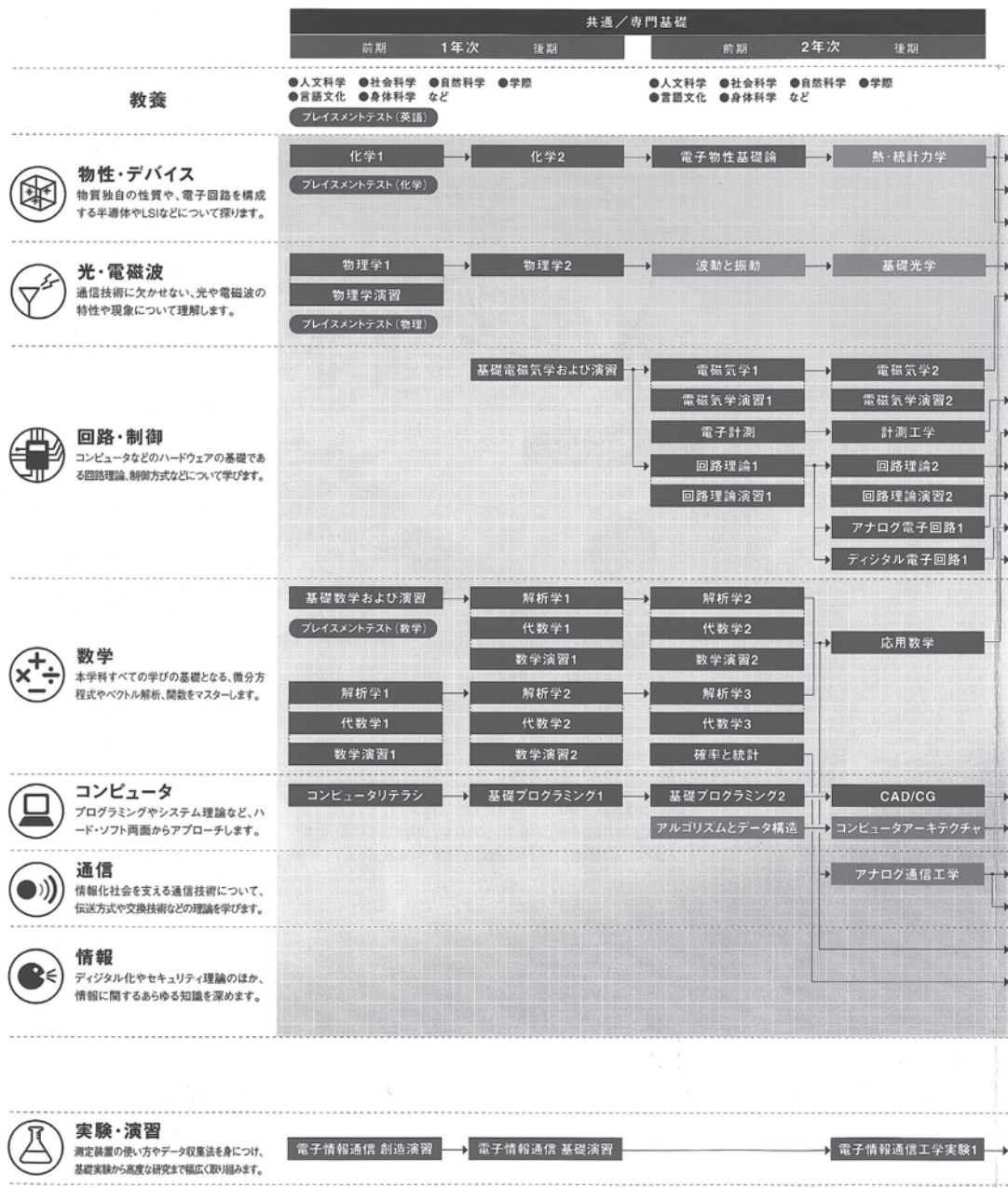
- イ 電子情報通信コースと教員免許取得支援コースの卒業要件単位は、必修科目13単位および選択科目79単位以上、合計92単位以上とする。
ゆめ育むコースの卒業要件単位は、必修科目24単位および選択科目68単位以上、合計92単位以上とする。
- ロ 電子情報通信コースと教員免許取得支援コースについては、専門基礎科目分野(共通科目)より、50単位以上を修得すること。
ゆめ育むコースについては、専門基礎科目分野(共通科目)より、49単位以上を修得すること。
- ハ 教員免許取得支援コースについては、別に定める教職関連科目に係わる授業科目のうち、「数学科教育法Ⅰ」、「数学科教育法Ⅱ」、「数学科教育法Ⅲ」、「数学科教育法Ⅳ」、「工業科教育法Ⅰ」、「工業科教育Ⅱ」、「情報科教育法Ⅰ」、「情報科教育法Ⅱ」、「情報と職業」の9科目について、履修し修得した単位を、専門基礎科目分野(共通科目)の卒業要件単位に組み入れることができる。
- ニ 電子情報通信コースと教員免許取得支援コースについては、専門応用科目分野(電子情報科目と情報通信科目)より、電子情報科目または情報通信科目のいずれかから18単位以上を修得すること。
- ホ 各分野において定められた最低要件単位数を超えて修得した単位は、選択科目として卒業要件単位に算入することができる。
- ヘ 備考欄中の表記について
備考欄中に全履修科目と指定された科目については、習熟度によりクラスを分ける科目。(実験科目は除く)
備考欄中の○印はプレースメントテストの結果に基づき、習熟度によりクラスを分ける科目。
入学初年度前期に「基礎数学および演習」を履修しなければならない者は、後期に「解析学1」、「代数学1」および「数学演習1」を履修するものとし、「解析学2」、「代数学2」および「数学演習2」は2年次前期に履修することとする。ただし、「解析学3」、「代数学3」は履修することができない。なお、入学初年度前期に「解析学1」、「代数学1」および「数学演習1」を履修する者は「基礎数学および演習」を履修することができない。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

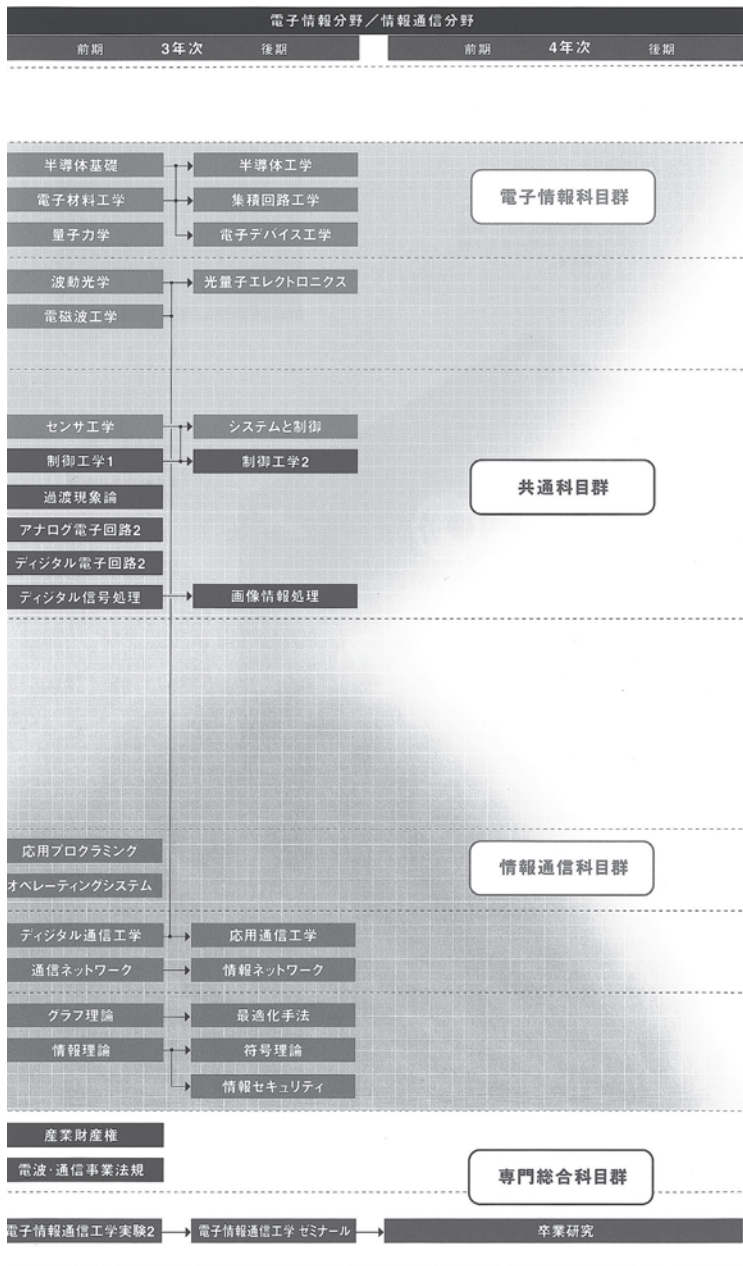
系統的・段階的に学ぶことができるカリキュラムで、
産業の最先端を担うエンジニアを養成します。

マナブ先端、創るミライ。 **OPENUP**

1～2年次を中心に、専門の基礎をしっかりと築き、3年次からは「電子情報科目群」「情報通信科目群」から、各自の興味や将来の夢に応じて



科目を選択し、学び専門性を高めます。



電子情報科目群

共通科目群

情報通信科目群

専門総合科目群

取得できる資格

- 第一級陸上特殊無線技士
(指定科目を修得して卒業すると、免許を取得)
通信事業者・電力会社・放送事業者・公共機関などで利用される多量無線設備の操作やタクシー・トラックなど陸上で移動通信を行う基地局の操作に必要な資格です。
- 第二級海上特殊無線技士
(指定科目を修得して卒業すると、免許を取得)
沿岸を航行する船舶や船舶向けの陸上無線局における無線設備やレーダー設備の操作に必要な資格です。

めざせる資格

- 工事担任者
(指定科目を修得して卒業すると、試験3科目中の1科目を免除)
NTTなどの電気通信回線との接続工事および監督に必要な資格です。AI系、DD系および総合の7資格すべてにに対し科目免除され、需要の高い資格です。
- 電気通信主任技術者
(指定科目を修得すると、在学中でも試験4科目中の1科目を免除)
NTTなど電気通信事業で用いられる設備の工事、維持および運用に必要な資格です。伝送交換主任技術者と線路主任技術者に分かれており、将来有望な資格です。

取得できる教員免許状

- 教職課程の単位を修得することで、「工業」「数学」をはじめ、今後ますます需要が高まるであろう「情報」の教員免許状も取得できます。
- 情報
高等学校教諭1種免許状
 - 数学
中学校・高等学校教諭1種免許状
 - 工業
高等学校教諭1種免許状
- (所定の単位を満たせば取得できます)
※実際に教員になるためには教員採用試験の受験が必要です。

Chapter

02

STUDY PLAN-08L 編入生

01.卒業要件単位数	047
02.卒業研究	049
03.卒業見込証明書	049
04.カリキュラム	050

01. 卒業要件単位数

(1) 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。

■高等教育課程を修了し、かつ、電子情報通信工学科が定める学力基準を満たしていると認められた者

専門教育科目	必修科目 選択科目(自由科目4単位を含む。)	8単位 54単位	62単位	学士(工学)
2年以上在学				

【総合教育科目】総合教育科目は全て卒業要件単位に入りません。

【専門教育科目】62単位

①必修科目(卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。)

「電子情報通信工学実験2」、「電子情報通信工学ゼミナール」、「卒業研究」の3科目8単位を必ず修得してください。「電子情報通信工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

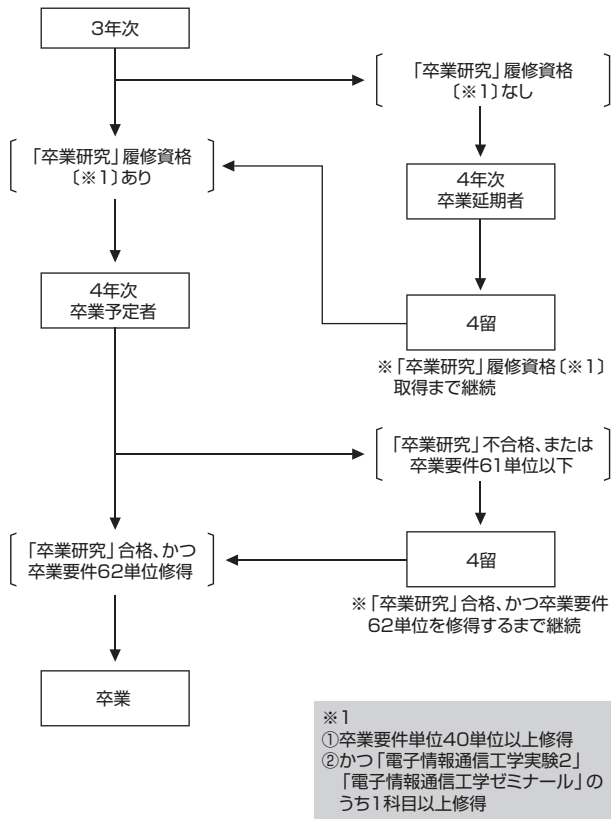
②選択科目(必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

①以外に、54単位を修得してください。1年次配当の専門教育科目は修得しても卒業要件単位に入りません。また、「基礎数学および演習」は履修することができません。

(2) 進級の条件

編入生は、1年間に最大54単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

—進級および卒業までの流れ—



02. 卒業研究

(1) 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

(2) 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

- ①卒業要件単位40単位以上を修得していること。
- ②「電子情報通信工学実験2」、「電子情報通信工学ゼミナール」のうち、1科目以上修得していること。

03. 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、13号館1階)を利用してください。

04. カリキュラム

専門教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目・一印は履修できない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前・後 期	前・後 期	前・後 期	前・後 期	
専 門 教 育 科 目	基礎数学および演習	1	2	—				**
	解析学 1	2	2	2	(2)			*
	代数学 1	2	2	2	(2)			*
	数学演習 1	1	1	2	(2)			*
	解析学 2	2	2	—	2	(2)		*
	代数学 2	2	2	—	2	(2)		*
	数学演習 2	1	1	—	2	(2)		*
	解析学 3	2	2	—	2			
	代数学 3	2	2	—	2			
	確率と統計	2	2	—	2			
	応用数学	2	2	—	—	2		
	物理学 1	2	2	2				*
	物理学演習 1	1	1	2				*
	物理学 2	2	2	—	2			*
	化学 1	3	3	4				*
	化学 2	2	2	—	2			*
	電子物性基礎論	2	2	—	2			*
	基礎電磁気学および演習	3	3	—	4			*
	電磁気学 1	2	2	—	—	2		
	電磁気学演習 1	1	1	—	—	2		
	電磁気学 2	2	2	—	—	2		
	電磁気学演習 2	1	1	—	—	2		
	回路理論 1	2	2	—	—	2		
	回路理論演習 1	1	1	—	—	2		
	回路理論 2	2	2	—	—	2		
	回路理論演習 2	1	1	—	—	2		
	過渡現象論	2	2	—	—	—	2	
	アナログ電子回路 1	2	2	—	—	2		
	アナログ電子回路 2	2	2	—	—	—	2	
	デジタル電子回路 1	2	2	—	—	2		
	デジタル電子回路 2	2	2	—	—	—	2	
	デジタル信号処理	2	2	—	—	—	2	
	画像情報処理	2	2	—	—	—	2	
電子計測	2	2	—	—	2			
計測工学	2	2	—	—	2			
制御工学 1	2	2	—	—	—	2		
制御工学 2	2	2	—	—	—	2		
コンピュータリテラシ	2	2	2				*	
基礎プログラミング 1	2	2	—	2			*	
基礎プログラミング 2	2	2	—	—	2			
C A D / C G	2	2	—	—	2			
電波・通信事業法規	2	2	—	—	—	2		
産業財産権	2	2	—	—	—	2		

必修 8・選択 54
合計 62

*備考欄に*印のある科目は修得しても卒業要件単位に入りません。

**印のあるものは履修できません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前 期	後 期	前 期	後 期		前 期
専 門 教 育 科 目	電 子 情 報 科 目	熱・統計力学	2		2				
		半導体基礎	2			2			
		電子材料工学	2			2			
		量子力学	2			2			
		半導体工学	2				2		
		集積回路工学	2				2		
		電子デバイス工学	2				2		
		波動と振動	2		2				
		基礎光学	2		2				
		波動光学	2			2			
		光子エレクトロニクス	2				2		
		電磁波工学	2				2		
	センサ工学	2				2			
	システムと制御	2					2		
	情 報 通 信 科 目	アルゴリズムとデータ構造	2		2				
		コンピュータアーキテクチャ	2		2				
		オペレーティングシステム	2			2			
		応用プログラミング	2			2			
		アナログ通信工学	2		2				
		デジタル通信工学	2			2			
		応用通信工学	2				2		
		通信ネットワーク	2			2			
		情報ネットワーク	2				2		
		グラフ理論	2			2			
		最適化手法	2				2		
		情報理論	2			2			
	符号理論	2				2			
情報セキュリティ	2				2				
専 門 総 合 科 目	電子情報通信創造演習	1		2				*	
	電子情報通信基礎演習	2		4				*	
	電子情報通信工学実験1	2			6				
	電子情報通信工学実験2	②				6			
	電子情報通信工学ゼミナール	②					4		
卒業研究	卒業研究	④					8	8	
小計			62						

注) 専門教育科目の履修要件

イ 卒業要件単位は、必修科目8単位および選択科目54単位、合計62単位とする。

※週時間数欄の数字は、2＝週1コマ、4＝週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。